

この規格は、下水道に用いる鉄筋コンクリート製のマンホールブロックについて規定している。

種類は、斜壁および直壁の2つのタイプに分けられ、斜壁については、600 A・B・C・D, 900 および 1200, 直壁については 900 A・B, 1200 A・B および 1500 A・B に類別している(数値は上口内径を表わし A・B・C および D の記号はそれぞれ高さによって分けられたものである)。

足掛金物は当事者間の協定によって、つけてもつけなくてもよいように規定されている。

その他、圧縮強度は材令 14 日の供試体が 200 kg/cm² 以上であるように規定している。

◎JIS A 1218 土の透水試験方法(新規)

この規格は、土の透水係数(浸透流速と動水傾度が比例する場合の比例定数、すなわち、土中の水の浸透の難易さを示す数値)を求める室内実験の方法を規定したものである。

試験方法としては、定水位試験方法および変水位試験方法の2つの方法が規定されており、前者は透水係数の比較的大きい材料に、後者は透水係数の比較的小さい材料の試験に適用するように規定されている。

◎JIS A 5520 水道用石綿セメント管鑄鉄継手および異形管(新規)

この規格は、水道に使用する石綿セメント管用の鑄鉄継手および鑄鉄異形管について規定している。

種類については、継手は最大使用静水頭により1種および2種に、異形管は、すべて静水頭 75 m 以下に用いるように規定している。

形状、寸法および重量は付図で詳細に規定している。

その他、付属品として、水道用石綿セメント管の接合に用いるボルトおよびナットについて規定している。

◎JIS A 8610 コンクリート棒形振動機(新規)

この規格は、径 100 mm 以下の棒状の振動機について規定している。

種類は、棒径、原動機の種類および連結方式によって分け、表-1 のように規定されている。

振動数は、7000 vpm 以上、振巾については棒径別に 表-2 の

表-1

呼 び 名	公称棒径 (mm)	原動機の種類	連 結 方 式
B M 27	27	電 動 機	直 結 形
B M 45	45		
B M 60	60		
B M 100	100		
B A 45	45	エアモータ	
B A 60	60		
B A 100	100		
BMF 27	27	電 動 機	フレキシブル形
BMF 45	45		
BMF 60	60		
BAF 27	27	エアモータ	
BAF 45	45		
BAF 60	60		
BEF 27	27	内 燃 機 関	
BEF 45	45		
BEF 60	60		

表-2

公称棒径 (mm)	振 巾 (mm)	公称棒径 (mm)	振 巾 (mm)
27	0.8	60	1.5
45	1.2	100	2.0

1960年4月~12月に日本工業標準調査会土木部会において議決されたJISを、つぎに紹介する。

◎JIS A 5304 歩道用コンクリート平板(改正)

平板の曲げ強度は、旧規格では 30 kg/cm² 以上となっていたが、改正規格では、これを 40 kg/cm² に引き上げられた。

その他、養生の規定の文章が若干改正されているが、根本的な養生の考え方は旧規格と同じである。

◎JIS A 5305 鉄筋コンクリート U 形(改正)

U形の曲げ強度は、旧規格では 25 kg/cm² 以上であったが、改正規格では、これを 30 kg/cm² に引き上げた。

種類としては、呼び寸法 150 mm および 600 mm の2つが追加された。

成形は、金属製型ワクを用い、振動機でコンクリートを締め固めるように規定された。

その他、養生規定の文章が JIS A 5304 (歩道用コンクリート平板)と同様若干改正された。

◎JIS A 5306 コンクリートおよび鉄筋コンクリート L 形(改正)

L形のヒワレ荷重が、コンクリートの曲げ強度が約 30 kg/cm² であるように決めた値に引き上げられた。

成形は、金属製型ワクを用い、振動機でコンクリートを締め固めるように規定された。

その他、養生規定の文章が JIS A 5304 (歩道用コンクリート平板)と同様若干改正された。

◎JIS A 5307 コンクリート境界ブロック(改正)

ブロックの破壊荷重が、コンクリートの曲げ強度が約 30 kg/cm² であるように決めた値に引き上げられた。

地先境界ブロックにC種として上辺 150 mm, 底辺 150 mm, 高さ 150 mm, 長さ 600 mm の寸法のものを追加した。

成形は、金属製型ワクを用い、振動機で締め固めるように規定された。

その他、養生の規定を JIS A 5304 (歩道用コンクリート平板)と同様若干改正した。

(以上の4規格は、7月25日の土木部会において議決したものである。)

◎JIS A 5302 鉄筋コンクリート管(改正)

呼び径 1650 mm および 1800 mm の2種類が追加された。

外圧試験荷重は、旧規格では単位当たり(kg/m)で規定していたが、改正規格はこれを荷重(kg)で規定した。

また、外圧試験荷重のうち、ヒワレ荷重を下表のように引き上げた。

呼 び 径 (mm)	旧 規 格 (kg)	改 正 規 格 (kg)
1000	2300	2400
1100	2400	2500
1200	2500	2700
1350	2600	2900
1500	2700	3100

その他、蒸気養生の規定の文章を JIS A 5309 (遠心力鉄筋コンクリートボール)に合わせた。

また、参考の配筋表を除いた。

◎JIS A 5317 下水道用マンホール側塊(新規)

ように規定されている。

その他、各部の材料についても規定されている。

◎JIS A 8611 コンクリート型ワク振動機（新規）

表-1

呼 び 名	原動機容量	原動機の種類	形 式	
F S M-20	200 W	電 動 機	取 付 形	
F S M-40	400 W			
F S M-55	550 W			
F S M-75	0.75 kW			
F S A-15	1.5 m ³ /min	エアモータ		
F S A-20	2.0 m ³ /min			
F P M-20	200 W	電 動 機	直結形	手持形
F P M-25	250 W		フレキシブル形	
F P M-40	400 W			
F P M-55	550 W			
F P A F-20	2.0 m ³ /min		エアモータ	

この規格は、型ワクに取りつけてコンクリートを締め固める振動機について規定している。

種類は、原動機の容量、種類ならびに振動機の形式によって表-1のように区分している。

振動数は、3000 vpm 以上、振巾は、呼び名別に表-2のように規定されている。

表-2

呼 び 名	振 巾 (mm)	呼 び 名	振 巾 (mm)
F S M-20	2	F P M-20	0.5
F S M-40	3	F P M-25	0.8
F S M-55	3		
F S M-70	3	F P M-40	0.5
		F P M-55	0.8
F S A-15	0.6		
F S A-20	1.0	F P A F-20	0.5

その他性能試験は、無負荷および負荷の場合について規定している。

アンケートの結果報告

土木学会誌の編集に対するアンケートを1960年11月、無作為抽出法によって500名の会員につき行なった。有効回収枚数は216枚で、そのおもな結果は次のとおりである。

	読む頻度	増 減 希 望			不 明
		増	可	減	
口絵写真	良 く	191	107	84	1
	時 ☆	21	5	16	
	ま れ に	3		3	
論 説	良 く	43	15	27	9
	時 ☆	115	6	109	
	ま れ に	49	1	46	
報 告	良 く	89	41	48	1
	時 ☆	105	28	76	
	ま れ に	21	1	17	
寄 書	良 く	35	12	22	13
	時 ☆	88	2	84	
	ま れ に	80	1	63	
解 説	良 く	64	40	24	8
	時 ☆	109	17	91	
	ま れ に	35	1	28	
資 料	良 く	81	35	46	8
	時 ☆	87	18	69	
	ま れ に	40	5	66	

豆 知 識	良 く	102	46	56	7
	時 ☆	73	6	66	
	ま れ に	34		25	
文 献 抄 録	良 く	64	32	32	4
	時 ☆	90	11	75	
	ま れ に	58	1	47	
会 員 欄	良 く	39	12	27	13
	時 ☆	58	2	52	
	ま れ に	106	1	76	
書 評	良 く	45	19	26	9
	時 ☆	92	9	83	
	ま れ に	70	1	54	
特 許 紹 介	良 く	39	18	21	
	時 ☆	78	8	67	
	ま れ に	91		68	
ニ ュ ー ス	良 く	135	72	63	4
	時 ☆	61	15	44	
	ま れ に	16	1	11	
文 献 目 録	良 く	61	24	37	4
	時 ☆	82	6	75	
	ま れ に	69		57	

なお希望講座課目として次のものが多票を得ていた。

○土質工学的(30)

○橋梁(新理論, 工法について)(12)

○道路工学(12) ○基礎工学(11) ○土木(建設)機械(10)